

JSPS Information

- ◇日本惑星科学会第41回運営委員会 議事録
- ◇日本惑星科学会第16回総会
- ◇日本惑星科学会第16回総会（書面による）議事録
- ◇地球物理学研究連絡委員会・議事抄録（第18期・第2回）
- ◇事務局変更のお知らせ

◇第41回運営委員会議事録

日 時：10月6日（土）18：00-19：30

場 所：岡山理科大学 十学舎11062教室

出 席：水谷，林，山本，香内，井田，阿部，渡邊，
佐々木，倉本，田近，向井，中村，安部，荒
川，春山，福岡，渡部（重），藤原

出 席（オブザーバー）：荒木，蛭川

欠 席（委任状あり）：大谷，中澤，渡部（潤），並木

欠 席（委任状なし）：寺園

報告：

1. 遊星人の発行状況

井田編集専門委員長から、今年末で日本学会事務センターとの契約が切れるので、12/25号は遅れが生じないように早めの編集作業で進めているとの報告があった。また、来年から事務を委託するイーサードは小規模な会社のため遊星人発行業務に関しては日程を遵守する必要があり、編集作業のスケジュールは12/25号程度に余裕を持ったものが望まれるとの説明があった。遊星人の発行会社である星光社に遊星人のpdf ファイル化を依頼したところ、1号当たり7万円という価格を提示された。pdf化は情報の電子化とその配付には欠かせないものなので、予算はかかるが実現できるよう運営委員会で議論してもらいたいとの要請があった。

これに対し、渡邊財務専門委員長より現在の財政状況ではpdf化用の予算を付けるのは難しいので、考えさせて欲しいとの返答があった。

2. 欧文誌・EPSの現状

佐々木委員から、EPSの2000年のImpact factorが発表され0.63という非常に低い値であることが報告された。このまま放置するのは良くないので、早急にImpact factor を上げる施策を打つべきであり、その一環として、EPSの掲載論文を回覧し、論文執筆時にEPSの論文を引用するよう働きかけることにするという説明があった。また、日本人は論文に外国人の論文を多く引く傾向にあるが、これは改めるべきであるという発言があった。EPSにおいて日本人執筆者だけの特集号を組めるようにすべきであるという意見があったが、佐々木委員から雑誌の質を維持するためにそれは受け入れられないという旨の返答があった。

3. 2001年秋季講演会

蛭川会員（2001年度秋季講演会LOC委員長）から、今回の講演会についての報告があった。10/6（土）4時現在で参加者106名、参加予想数136名となっている。予算は110万円で組んでいたが、ほぼ収支決算は0になりそうである。懇親会には学長及び理事長が出席の予定である。シンポジウムには高校生も来るので参加人数が多くなり、席の混雑が予想されるので、できるだけ詰めて座って欲しいということであった。

運営委員会成立の条件である委員3/4以上の出席が確認されたので、議題の議論に入った。

議題：**1. 入退会**

- ・荒川総務専門委員長より二人の入会希望者(一般会員)について照会があった。両者とも入会は承認された。

2. 第6期上期中間報告

- ・渡邊財務専門委員長より上記議題に関する説明があった(総会議案書参照)。会費の納入率が低いのが問題である。特に学生会員の滞納率が高いので指導教官各位のご助力を願いたい。支出に関しては予定通り執行されている。

3. 第6期下期予算ガイドライン

- ・渡邊財務専門委員長から上記議題に関する説明があった(総会議案書参照)。収入に関しては退会希望者の増加と学術情報センターからの収入減を考慮し、25万円減とした。退会希望者の増加予測は、学会支援システムの電子化に伴うものである。学会予稿を学術情報センターに買い上げてもらっていた額は、今後¥1000から¥400に減ると思われる。支出に関しては事務局の移行(学会事務センターからイーサイド)と運営支援の電子化に関連して発生する支出が計上されている。学会の財政は引き続き大変に厳しい状況であるので、場合によっては来年は夏の学校の補助を打ち切るかもしれない。以上の説明後、本議題は原案通り承認された。

4. 学会運営支援の電子化

- ・林副会長から上記議題に関する報告と説明があった。現在、登録実験の最中であり、登録終了者数は110名程度である。登録実験終了後は、未登録の会員を手作業で入力することになる。この数を減らすためにも会員の皆様の御協力をお願いしたい。選挙システムはこれから構築することになるが、それ以外はweb上に実装が完了しつつあ

る。イーサイドへの業務委託費は不十分であるので、今後とも技術供与など学会側からできる支援を継続する。また、イーサイドでの業務委託を順調に進めるためにも、他の依託学会を斡旋する必要がある。

- ・引き続き、渡邊財務専門委員長からイーサイドとの事務委託に関する契約書(案)の説明があった。契約金額はすでに確定しており、予算のガイドラインにある通りである。契約の具体的内容に関しては現在作成中である。契約期間は1年で更新可能であり、また最低2年間の業務委託は約束されている。このシステムの保持が予算的に難しくなっても、学会事務センターへの業務委託はその時に問題なく戻ることができる。財務的には、本システムを維持するためには会員数600名程度が必要である。会員数増加のためにもweb上のコンテンツの充実が望まれる。
- ・契約書にある年間の業務委託費の書き方が不明瞭である。また業務委託価格が何年間有効かがわかりにくい等の質問が出た。

以上の議論後、本議題は原案通り承認された。

5. 会則の改定について

- ・荒川総務専門委員長から上記議題に対する説明があった(総会議案書参照)。議案1, 2に関しては、運営委員会の権限を強め過ぎる可能性があるため、見直しは慎重にすべきだという意見が出た。議案1に関しては、慣習として年2回の学会時に運営委員会を開催するというので、開催回数を削除しても良いのではないかという意見が出た。議案1,2とも電子化に関連して早急に変える必要のある会則ではないので、今回の総会では議案に載せないことに決定した。議案3,4に関しては原案通り承認された

6. 2002年秋季講演会

・荒木会員より来年度の秋季講演会に関して説明があった。この説明に対して、会場費捻出のため、参加費や予稿集代の値上げを検討した方が良いという指摘があった。また、学会web上に講演会の宣伝を置くことができるので有効利用して欲しい旨、要請があった。

7. 2002年合同大会

・阿部対外協力専門委員長より、合同大会について説明があった。現在セッション提案の最中である

ので、積極的にセッションを提案して欲しい旨、要請があった。レギュラーセッションはすでに確定しており、本学会関連は「惑星科学」の1本である。スペシャルセッション、ユニオンセッションの公募を行っている。

8. 宇宙3機関統合化について

・水谷会長より、上記議題について説明があった。学会として研究者の意見を集約し、担当機関(者)にアピールを行う必要がある。今後、要望書の原案をまとめ、運営委員会での議論をお願いしたい。

◇日本惑星科学会 第16回総会

日時：2001年10月7日(日) 15:30-17:00

場所：日本惑星科学会 秋季講演会 会場
(岡山理科大学十学舎 11062教室)

議事次第

1. 開会宣言

2. 議長団選出

3. 議事

3.1. 学会運営支援の電子化と事務局の移転

報告……………林副会長/将来計画専門委員長
質疑応答及び討論
採決

3.2. 第6期上期収支の中間報告

報告……………渡邊財務専門委員長
質疑応答及び討論

3.3. 第6期下期予算編成・執行方針

予算ガイドライン……………渡邊財務専門委員長

質疑応答及び討論

採決

3.4. 会則改定

報告 ……………荒川総務専門委員長

質疑応答及び討論

採決

4. その他

5. 議長団解任

6. 閉会宣言

議案書

1. 惑星科学会運営支援の電子化に関する議題

・2002年1月1日より惑星科学会運営支援の電子化本運用を開始する。会員データや各種情報、ニュースレターを電子化し、WEBと結合し、会員業務等の事務処理の効率化を実現するため、以下の提案をする。

1. 会誌「遊・星・人」および会費請求書については、事務局実務作業担当者より、従来通り郵便によって各会員に配布する。

2. その他の郵便による学会からの通信は原則的に廃止する。

- (1) 紙のニュースレターを電子メールによるものに切り替える。
- (2) 紙の名簿をWEB上で検索・閲覧できるものに切り替える。
- (3) 会長・運営委員等の選挙は学会サーバで電子的に行う。

3. 会員個人情報の登録や変更は各自がWEBから随時行えるようにし、その確認は電子メールにて行う。

そのため会員には

- (1) インターネット(<http://www.wakusei.jp/>)に接続可能であること
- (2) 連絡先電子メールアドレスを持っていること

を原則的に前提とする。

4. 事務局実務作業担当者の変更

・学会事務センターから株式会社イーサイドに1月1日付で契約変更し、サーバ管理、会員業務、問い合わせに対する簡単な受付業務、および学会誌頒布業務をお願いする。

5. 事務切替え作業の開始

・2001年11月1日より、株式会社イーサイドに事務切替え作業をお願いする。

2. 第6期上期（2001年度）収支の中間報告（財務専門委員会）

概要

10月1日現在での収支中間報告である。おおむね予算どおりに執行されている。収入の部では正会員（一般+学生）会費の納入率がやや悪いようなので、学会員のご協力をお願いしたい。支出の部では、これから年度末にかけて、例年の支出項目に加えて、事務局移動と運営支援の電子化に関わる出費が加わる予定である。

第6期上期（2001年度）中間収支報告書（2001年1月1日～2001年10月1日）

I 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	執行額	備考
会費収入	4,000,000	3,283,675	
一般会費収入	3,377,500	2,450,175	会費：7,500円
学生会費収入	610,000	255,000	会費：5,000円
賛助会費収入	400,000	300,000	
滞納分納入	306,000	278,500	422,000円のうち
当期分未収会費	△693,500	--	
学会誌出版事業費収入	50,000	45,950	遊・星・人
講読料	50,000	45,950	個人・機関講読
広告料	0	0	
秋季講演会事業収入	250,000	0	岡山理科大
予稿集頒布収入	100,000	0	1000円/冊
参加費	150,000	0	1500円/学生1000円
雑収入	0	0	
寄付金収入	150,000	150,000	
雑収入	151,000	28,139	
受取利息	1,000	1,738	
その他の収入	150,000	26,401	学情入力等
当期収入合計(A)	4,601,000	3,507,764	
前期繰越収支差額	1,595,069	1,595,069	
収入合計(B)	6,196,069	5,102,833	

II 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	執行額	備考
学会誌出版・広報事業費	2,200,000	1,013,020	遊・星・人
印刷製本費	1,520,000	695,100	4回分・表紙
送料運搬費	180,000	99,720	著者分送料含まず
保管料	20,000	0	保管：委託事務
事務委託費	20,000	18,400	手数料：委託事務
備品・消耗品費	160,000	0	サーバ周り
諸謝金	300,000	199,800	サーバ管理
講演会事業費	595,000	104,000	
合同大会共催事業費	95,000	4,000	
送料運搬費	85,000	0	

会場費	10,000	4,000	運営委・総会会場
秋季講演会事業費	400,000	0	岡山理科大
予稿集印刷費	120,000	0	
会場費	100,000	0	概算額
消耗品費	50,000	0	受付用品他
諸謝金	120,000	0	学会受付者謝金含む
雑費	10,000	0	
夏の学校補助金	100,000	100,000	
管理費(委託事務関連)	1,300,000	552,838	学会事務センター
業務委託費	1,000,000	399,000	
送料運搬費	260,000	144,810	
ニュースレター送料	180,000	87,930	
その他送料	80,000	56,880	会費請求
雑費	40,000	9,028	コピー・通信
管理費(事務局関連費)	340,000	2,722	
通信費	0	0	
送料運搬費	32,000	1,252	会誌著者分他
消耗品費	40,000	0	
印刷製本費	120,000	0	集録印刷
諸謝金	120,000	0	会長雑務補助
諸手数料	8,000	1,470	振込手数料
負担金	0	0	
雑費	20,000	0	
予備費	1,761,069	0	
当期支出合計(C)	6,196,069	1,672,580	
当期収支差額(A-C)	△1,595,069	1,835,184	
次期繰越収支差額(B-C)	0	3,430,253	

3. 第6期下期(2002年度)予算編成・執行方針(財務専門委員会)

概要

来年は、総会開催が合同大会時の6月となる予定のため、予算執行上問題が生じる。一方、現時点での詳細な予算案作成は不確定要素が多く困難である。そこで、例年同様、来年度予算ガイドラインを審議・承認いただきたい。

第6期下期(2002年度)予算ガイドライン(案)(2002年1月1日~12月31日)

I 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	備考
会費収入	3,750,000	4,000,000	
学会誌出版事業収入	50,000	50,000	機関講読分
秋季講演会事業収入	250,000	250,000	予稿集・参加費
寄付金収入	0	150,000	
雑収入	30,000	151,000	利息・複写権料
当期収入合計(A)	4,080,000	4,601,000	
前期繰越収支差額	1,600,000	1,595,069	
収入合計(B)	5,680,000	6,196,069	

II 支出の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	備考
学会誌出版・広報事業費	2,280,000	2,200,000	含むWEB管理費用
講演会事業費	500,000	595,000	春・秋(水沢)
管理費(委託事務関連)	1,130,000	1,300,000	e-side
管理費(事務局関連)	170,000	340,000	
予備費	1,600,000	1,761,069	
当期支出合計(C)	5,680,000	6,196,069	
当期収支差額(A-C)	△1,600,000	△1,595,069	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	

4. 会則改定について

事務局の移転及び学会運営支援の電子化に伴い関連する会則の改定をお願いしたい。改定を必要とする会則は以下の通りである。

1. 第14条2項(3)

(旧) 運営委員会は、原則として年4回、会長が召集し、議長となる。

(新) 運営委員会は会長が召集し、議長となる。

2. 第14条3項(1)

(旧) 総務、財務、編集、将来計画、対外協力、欧文誌の6常設専門委員会からなり、会の業務を執行する。

(新) 本会に専門委員会をおき、総務、財務、編集、将来計画、対外協力、その他に関する業務を執行する。

(参考) 同項(2) 専門委員会の新設、変更、廃止などは運営委員会の議決による。

3. 第18条

(旧) 本会則は2000年1月1日から施行する。

(新) 本会則は2002年1月1日から施行する。

4. 付則1項

(旧) 本会の事務局は日本学会事務センター内におく。

(新) 本会の事務局は株式会社イーサイド内におく。

◇日本惑星科学会第16回総会議事録

日 時：2001年10月7日(日) 15:30-17:00
 開催場所：日本惑星科学会秋季講演会会場(岡山
 理科大学十学舎11062教室)
 出席者数：88名(内委任状29通)[定足数52名]

- (1) インターネット(<http://www.wakusei.jp/>) に
 接続可能であること
 (2) 連絡先電子メールアドレスを持っていること

を原則的に前提とする。

1. 開会宣言

荒川総務専門委員長から開会宣言がなされた。

2. 議長団選出

議長として城野会員，書記として生駒会員が選ばれた。

4.事務局実務作業担当業者を「学会事務センター」から「株式会社イーサイド」に1月1日付で契約変更し，サーバ管理・会員業務・問い合わせに対する簡単な受け付け業務・学会誌頒布業務をお願いする。

3. 議事

3.1. 学会運営支援の電子化と事務局の移転

2002年1月1日より本運用を開始する惑星科学会運営支援の電子化に向けて，林将来計画専門委員長(兼副会長)から以下の提案がなされた。

5.2001年11月1日より，株式会社イーサイドに事務切り替え作業をお願いする。以上の提案は賛成多数(1名が保留)で可決された。

1.会誌「遊・星・人」および会費請求書については各会員に，事務局実務作業担当業者が従来通り郵便で配布する。

会員から出た質問およびコメントは，(1)ホームページの具体的な内容に関するもの(2)事務局実務作業担当業者に関するもの(3)入力実験の状況に関するものである。

2.郵便によるその他の通信は原則的に廃止する。

(1) 紙のニューズレターを電子メールによるものに切り替える。

(1)に関しては，「講演会のLOCは具体的には何をすればよいのか?」・「素人のための質問コーナーを作って欲しい。」・「『行きたい大学・研究室』に関するページがあるのでリンクを張るとよい」などの質問や要望が出た。現時点では「箱」ができただけで，中身の充実はこれからである。経験者など多くの人が様々なアイデアを出し，多くのボランティアによって徐々に作って行って欲しい——と林委員長から回答があった。

(2) 紙の名簿をWEB上で検索・閲覧できるものに切り替える。

(3) 会長・運営委員等の選挙は学会サーバで電子的に行う。

(2)「事務局実務作業担当業者」に関しては

1. 株式会社イーサイドの信用度・関係
2. 移行のための予算措置
3. イーサイドが撤退した場合の処置

3.会員個人情報の登録や変更は各自がWEBから随時行えるようにし，その確認は電子メールにて行う。そのため会員には

についての質問があった。これらに対する回答はそれぞれ以下の通りである。

1.株式会社イーサイドは、林委員長と個人的につながりのある会社である。(林将来計画専門委員長)

2.2001年についての13万円は学会事務予算と同額なので問題ない。(渡邊財務専門委員長)

3.元の学会事務センターに戻る。イーサイド側は2年間様子を見ることになっており、そのあと場合によっては撤退する可能性がある。(林将来計画専門委員長)

最後に(3)「会員による入力実験」に関して、全会員の入力が必要であることを林委員長が強調した。現時点では、会員数517名に対して、入力を行った会員数は110名弱である。

3.2. 第6期上期収支の中間報告

渡邊財務専門委員長から第6期上期収支の中間報告がなされ、おおむね予算どおりに執行されていることが伝えられた。しかし一方で、学生会員の会費納入率の低さが指摘された。これについては、研究室のメンバーなど身近なところから未納者を減らす努力をし、納入率を上げて欲しい——という要望が渡邊委員長からあった。

3.3. 第6期下期予算編成・執行方針

渡邊財務専門委員長から第6期下期予算ガイドライン(案)が出された。収入に関して、

- ・会員数の減少により会費収入の見積もりを前年に比べて減額したこと
- ・寄付金がなくなったこと
- ・雑収入が減ったこと

が報告された。支出に関しては前年度とほぼ同じである。運用はできるが収支はゼロというのが現状である。なお、このガイドラインは全会一致で承認された。

3.4. 会則改定

事務局の移転及び学会運営支援の電子化に伴い関連する会則の改定案が荒川総務専門委員長から出された。

1. 第18条

(旧) 本会則は2000年1月1日から施行する。

(新) 本会則は2002年1月1日から施行する。

2. 付則1項

(旧) 本会の事務局は日本学会事務センター内におく。

(新) 本会の事務局は株式会社イーサイド内におく。

これらの改定は全会一致で可決された。

4. その他

(1) Muses-C]の国内初期分析チームの選出状況(矢野会員)：11候補グループから分析審査によって7グループまで選別した。最終的には6グループに絞られる。

(2) 2002年の秋季講演会について(荒木会員)：

日時：2002年10月2日～4日

場所：岩手県水沢市文化会館

(3) 2002年地球惑星科学関連合同大会のセッション提案のお願い(阿部対外協力専門委員長)

5. 議長団解任

議長：城野会員および書記：生駒会員が解任された。

6. 閉会宣言

荒川総務専門委員長から閉会宣言がなされた。

◇第18期第2回惑星科学専門委員会議事録

日時：平成13年10月8日(月) 12:00～13:30

場所：岡山理科大学十学舎11062教室

出席者：中澤，土山(以上委員)，水谷，香内，渡部，(以上オブザーバー)

林，山本，井田(以上日本惑星科学会からの臨時オブザーバー)

配布資料：『科研費分科細目の見直し』(資料 2-1)

『第4部委員会組織』(資料 2-2)

『研究費アンケート』(資料 2-3)

『日本天文学会による宇宙3機関統合に関する要望書』(参考資料 2-1)

報告に先立ち，中澤委員長より「本日の審議事項①は日本惑星科学会との関わりが深いことから，同学会林，山本両副会長，井田編集委員長の同席をお願いしたので認めて欲しい」旨発言があり，了承された。

I. 報告

中澤委員長より下記の通り各種報告があった。

①第1回地球物理学研究連絡委員会（13年1月10日開催）

表記研連では，今期委員会の運営方法につき確認したほか，同研連傘下の各課題別研連の活動状況報告並びにIUGG札幌大会準備状況の報告があった。

②第2回地球物理学研究連絡委員会（13年6月19日開催）

(1) IUGG準備状況

IUGG 札幌大会の上田組織委員長，末広事務局長がオブザーバーとして出席し，同委員長より，学術会議との共催が内定したこと，組織委員会委員が確定したこと，総会テーマ「State of the Planet」のもと，シ

ンポジウム等の企画を進める予定であることなどの報告があった。

(2) 研連の見直し

研連の見直しに関わり，複数の空き研連と委員の抛出が求められている旨，入倉委員長より報告があった。地物研連としては前期より，「地物研連+傘下8専門委員会」構想の引継があり，基本的にはこの構想を軸に検討していくことを確認した。また，同時に委員定数の増員要求を行っていくべきとの意見が出された。

(3) その他

学術会議関係委員会は今後原則としてすべて公開する事になった旨，委員長より報告があった。

③科研費の分科・細目見直し

学術審議会科研費分科会ならびに学術体制常置委員会科研費分科会で検討されている科研費分科・細目の見直し案の骨子は以下の通りである(資料2-1)。

- ・現行の8部制から「総合・新領域系」，「人文社会系」，「理工系」，「生物系」の4系にくくる
- ・現行の242細目から278細目へと細目数を増やす
- ・「理工系」は「数物系科学」，「化学」，「工学」の3分野から構成する
- ・現行の分科名「地球科学」は「地球惑星科学」に変える
- ・細目名「固体地球科学」，「地球化学」はそれぞれ「地球惑星物理学」，「地球宇宙化学」に変える
- ・新方式は平成15年度から導入され，ほぼ5年ごとに見直しを行う

II. 審議

① 科研費実態調査について

前回の委員会(第18期第1回委員会)で表記実態調査を行うことを決めたが、それを受け、具体的な調査方法について検討した。委員長より、資料2-3に基づき「前回の議論では、科研費のみを調査項目としていたが、昨今いくつかの『競争的外部資金』も大型化し、研究費のなかで大きな比重を占め始めていることから、これら研究費についても調査項目に含めたい」旨発言があり、了承された。その後、具体的な調査方法につき検討した結果、概ね以下の通り実施することとした。

- ・調査対象は日本惑星科学会正会員とする
- ・委員会は調査費を持っていないことから、質問文は学会誌「遊星人」に掲載し、そのページを切り取り返送してもらう。同時に、web上でも流し、インターネットによる回答も可能にする。
- ・アンケート文案は香内WG委員が作成した原案をもとに、科研費以外の項目を加え、また、webに流しやすい形にかえる。案作成は委員長が行う。
- ・次号「遊星人」に掲載できるよう、作業を急ぐ。

② 研連の見直し

地物研連より検討依頼されている表記事項につき検討を行ない、本委員会として以下の通り地物研連に報告することとした。

- ・「地物研連+傘下8専門委員会」構想に基づき見直しを行う。
- ・傘下8専門委員会が合同したものを地物研連とする(物理学研連の方式)。
- ・傘下8専門委員会は同じ委員定数をもち、平等の立場に置く。
- ・緊急な事態に対応できるよう、いくつかの空き定数を地物研連として保有する。

- ・可能ならば、地質学系の研連にも同様の組織構造を構築するよう呼びかけ、地物・地質両研連の連絡会をつくる。

③ 宇宙3機関統合について

水谷オブザーバーより、表記につき以下の通り報告があった。

- ・8月21日、宇宙科学研究所、宇宙開発事業団、航空技術研究所(いわゆる宇宙3機関)の組織統合を行う旨、遠山文部科学大臣より声明が発表された。
- ・これを受け、文部科学省副大臣の下に準備会議が設けられ、すでに作業に入っている。
- ・同会議では、平成13年度末までに組織統合案をとりまとめ、平成14年度には準備費を計上し、平成15年4月に統合する、とのスケジュールを決めている。

引き続き、水谷オブザーバーより「この問題は我が国の宇宙開発、宇宙科学の推進に重大な関わりがあることから、本委員会でも十分検討してもらいたい。また、日本天文学会ではこの問題に関連して「声明文」を準備しているようであり、本委員会としても何らかの対外的なアクションをとって欲しい。」旨、発言があった。これを受け、審議に入ったが、主たる意見は以下の通りである。

- ・宇宙開発後進国であった日本が惑星探査に挑むレベルにまで達したのはこれら3機関の絶大な努力の結果であり、各機関のもつ良さを保持できる組織統合でなければならない。不用意な組織いじりは将来に大きな禍根を残すことになる。
- ・宇宙研が行ってきた宇宙科学探査は輝かしい成果を挙げてきたが、これは宇宙研だけで支えてきたものではなく、他研究所や多くの大学所属の研究者の共同作業によるものである。我が国独自の

この研究・開発手法を今後とも維持・発展させることが何より大切であり、これを失うようなことになれば、我が国の宇宙科学探査は事実上不可能になる。

- ・探査機，人工衛星による天文・惑星観測分野，関連開発分野にあつては，宇宙科学研究所が大学の研究室ではなし得ない高度の大学院教育を“on the job”で果し，後継者育成に大きな役割を果たしてきている。機関統合の後にあつても新たな組織がこの役割を十分果せるものでなければならぬ。

その後、「対外的なアクション」の取扱について協議したが，本専門委員会からの「声明」とするにはいくつかの事務的なステップを踏む必要がある(委員長)ことから，かなりの時間を要し，タイミングを失する可能性があるため，日本惑星科学会やその他の関連学

会に上記のような意見があつたことを伝え，学会レベルで対応してもらうよう，委員長から伝えることとした。

④その他

委員長より，

- ・行政改革に関連して学術会議の役割を根本的に見直す必要があるが，全体的なことは上位委員会に委ねるとして，本委員会の積極的な役割を見出していく必要がある
- ・他方，大学は独立法人化され，教育内容の一層の充実を求められている

ことから，今後本委員会として，惑星科学関連の学部，大学院における教育の実状を把握したり，独自の研究・教育評価方式を模索していきたい旨発言があり，今後の課題として取り上げていくことにした。

◇事務局変更のお知らせ

日本惑星科学会運営委員会 (文責: 渡邊誠一郎)

日本惑星科学会の運営支援の電子化(遊・星・人 vol.10 No.3 p111)に伴い，学会事務業務の委託を，2002年1月1日をもちまして，現行の日本学会事務センターから株式会社イーサイドに移すこととなりました。新年以降は会員業務，会費徴収，学会誌郵送・頒布，学会受付窓口は，すべてこちらに切り替わります。したがって，従来の遊・星・人の末尾にとじ込まれていた入会申込書，名簿訂正カード，学会誌購入申込カードは全て使えなくなりますので，ご注意ください。また，会員業務は基本的にWebと電子メールを通じて行なえるようにしていく予定です。

●日本惑星科学会事務局

住所：〒107-0052

東京都港区赤坂4-1-32 赤坂ビル2階
株式会社イーサイド 登録センター内

e-mail : staff@wakusei.jp

T e l : 03-3585-8161

F a x : 03-3585-8162

(連絡はできる限り電子メールをお使いいただきますようご協力お願いいたします)

事務局受付時間：

月曜日～金曜日 10:00～17:00(祝日を除く)

時間外にいただきましたお問い合わせにつきましては返答が次営業日になりますのでご注意ください。

●学会費振込口座

口座番号：00990-5-43237

口座名称：株式会社イーサイド 登録センター

●日本惑星科学会ホームページ

URL : <http://www.wakusei.jp/>

連絡先：www-admin@wakusei.jp

惑星科学会サーバ(www.wakusei.jp)は、現在のところまだSSL(注1)の第三者による証明を受けていません。証明は当該サーバ自身が発行しています(証明書 e-side, inc. 署名者 e-side, inc)。したがって、サイトの証明を受け付けるか等々のダイアログページが表示され確認を要求してきますので、確認して先に進んでください(続けるをクリックしてください)。なお、Macintoshの方はInternet Explorerを使うとSSL化されない、というバグ(?)がありますので、Netscapeをご使用ください。

(注1) SSL:インターネットの情報はたくさんのコンピュータを経由して流れていきます。SSLは、WebサーバとWebブラウザ間のやり取りを暗号化して、たとえ途中で盗聴されても通信内容を判読不能にする暗号通信プロトコルです。

以下に新しい学会事務体制での、主な案件の対処方法を書きますのでご参考にしてください。なお、以下のWebに内容に関する部分は随時変更される可能性があるため、Webの記述を十分にお読み下さい。

1. 新規に入会したい

ホームページの左フレームにある鍵の印の「登録」をクリックして、表示されるページの中で「新規入会希望の方へ」の項の指示に従ってください。事務局への通知の必要はありません。運営委員会の審査を経て、入会が受理されると、当該年度既刊の学会誌遊・星・人と会費振込用紙が連絡先住所宛に郵送されます。

2. 既に会員だがWebからの個人情報登録は済ませていない

いますぐに、ホームページの左フレームにある鍵の印の「登録」をクリックして、表示されるページの中の「移行登録をしていない会員の方へ」の項の指示に従

って、個人情報をご登録ください。事務局への通知は不要です。

3. 住所等の個人情報を変更したい。

すでにWebでの個人情報登録をお済ませの会員は、ホームページの左フレームにある鍵の印の「登録」をクリックして、表示されるページの中で「データベースの更新」の「個人データ」をクリックしてください。すると会員番号とパスワードの入力を求められますから、入力して「OK」を押してください。すると現在登録されている個人情報が表示されます。内容を変更する場合は、末尾の「変更」ボタンを押して、画面の指示に従って該当項目を変更してください。学会誌や会費振込用紙が届かない場合は登録住所に誤りがある可能性がありますので、このページで登録内容をご確認ください。

Webでの個人情報登録をまだされていない方は2項に従って、まず登録をしてください。その際に変更したい項目は直にご登録下さい。いずれも、事務局への通知は必要ありません。

4. 会費を払いたい

事務局から送られる郵便振込用紙を使って郵便局からお振込ください。銀行振込はできなくなりました。前年度会費未納の方もいらっしゃいますので、振込用紙に記載の額をご確認の上、振込手数料は会員のご負担にてお振込下さい。事務局移行の作業がありますので、振込用紙の発送は、例年より遅れまして新年2月上旬頃を予定しておりますので、よろしくお願ひします。予定時期を過ぎても振込用紙が届かない等の問題がありましたら、事務局まで電子メールにてお問い合わせ下さい。なお、会員自らの会費残高(未払い分の会費額)や会費納入履歴は、Webで確認できるようにする予定です。

5. 学会講演会等の学会関連行事の情報を知りたい

ホームページの左フレームにあるマイクの印の「ニ

ューズ」をクリックして、表示されるページの「講演会等のお知らせ」の項の指示に従って、リンクを辿ってください。

6. ニュースレターやオープンメーリングリストが届かない

Web登録から自動的にメールアドレスが当該メーリングリストに登録される予定ですので、3項の記述に従って、登録されたメールアドレスをご確認下さい。それに誤りがなければ、何らかの問題があると考えられますので、www-admin@wakusei.jp までお知らせ下さい。

7. Webに関する技術上の問題点

www-admin@wakusei.jpまでお問い合わせ下さい。

8. 学会運営・総会・運営委員会に対する質問・要望等

steering@wakusei.jpまでお問い合わせ下さい。運営委員全員にメールが届きます。

9. 学会誌「遊・星・人」の内容に関する質問・要望等

yuseijin@wakusei.jp までお問い合わせ下さい。編集委員会にメールが届きます。ただし、購入希望は10項をみてください。

10. 学会誌「遊・星・人」のバックナンバー購入希望

Webから購入申し込みをできるようにする予定です。当面は、事務局まで電子メールにて、氏名、郵送先住所、必要巻号、部数などをお書きの上、お申し込み下さい。

11. 会員名簿が欲しい

紙ベースの会員名簿は、今後、発行いたしません。なお、Webにて会員個人情報は検索表示可能です。

登録者が公開可能とした情報について、Web登録を終了した会員のみが閲覧できます。ホームページの左フレームにある鍵の印の「登録」をクリックして、表示されるページの中で「データベースの参照」の「検索一覧表示・詳細表示個人データ」をクリックしてください。会員番号とパスワードの入力を求められますから入力して「OK」を押してください。会員検索入力ページが現れます。何もキーワードを指定しないで検索ボタンをおすと全会員のリストが表示されます。

12. パスワードを忘れた

Web上で会員番号を入れると、登録時に入力した「秘密の質問」が問われ、これに正しく回答できるとパスワードを再設定できるようにする予定です。秘密の質問の答えも忘れた人は、再度登録をしていただきます。パスワードは忘れないように留意願います。

13. 海外にいる会員はどうすればいいの？

遊・星・人は現行どおり船便にてお送り致します。会費送金方法は、国際郵便為替(International Postal Money Order)による方式を基本とする予定です。詳細は後日海外会員宛に通知いたします。なお、Webでの個人情報登録は可能な限りお願いします。

14. 退会したい

まずは、もう一度考え直してみてください。どうしてもという場合は、事務局まで電子メールにて会員番号と氏名をお知らせ下さい。退会は、運営委員会で審査の上承認されますが、会費が完納されている必要がありますのでご注意下さい。

15. 会員に公開できる電子メールが無い

新システムでは、原則として会員が公開可能な電子メールアドレスを持っていることを前提としていますので、どなたかメールアドレスを持っておられる代理の方を探していただくのが最良です。それがどうしても困難な方はメールアドレスとして、ゴミ箱アドレスであ

る, null@wakusei.jpを指定して個人情報登録をしてください。登録さえ完了すれば、ニュースレター等は、ホームページの左フレームにあるマイクの印の「ニュース」をクリックして、表示されるページの中で「ニ

ュースレター過去記事」等をクリックして、会員番号とパスワードを入力していただければ閲覧できます。遊・星・人や会費振込用紙は登録された連絡先住所に郵送されるので問題ありません。

◇日本惑星科学会賛助会員名簿

2001年12月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します。(五十音順)

宇宙開発事業団

カイカインスツルメンツ(株)

(株)日立製作所放送・通信システム推進本部

三菱プレジジョン(株)

(財)リモート・センシング技術センター